



森林官からの手紙



森林・林業日本一の町の様々な取り組み

三陸中部森林管理署 世田米森林事務所 森林官 安藤 菜穂



カップの巨大オブジェ

森林講座を開催し、人気を博しているほか、用具に木材を使い、子供からお年寄りまで楽しめるスウェーデン生まれのスポーツ

を講師に招く



木造の住田町役場新庁舎

近年では、東日本大震災の際、独自規格の木造仮設住宅をいち早く供給したことや、町産材を使用した役場新庁舎の完成が話題を呼びました。また、地域の森林に精通した人や、学識者を講師に招く

私の勤務する世田米(せたまい)森林事務所は、岩手県の南東部に位置する住田町にあります。森林資源の豊かな住田町は『森林・林業日本一の町づくり』を宣言し、様々な取り組みを行っています。例えば、町産材を活用するため木工団地を設立し、全国に先駆けて森林認証を取得しました。



観客の見守る中、競技開始

『カップ』の普及活動も行っています。町の林業関係者の間でも、様々な取り組みが自主的に行われており、その一つに、有志で開催する『丸太早切り大会』があります。安全で効率的な伐木作業の基礎は、チェーンソーの目立てにあります。正しく目立てされた歯を使えば、切断速度が格段に上がるほか、機械の振動も小さくなり、使用者の身体への負担が少なくなります。早切りの競技を通じ、目立て技術等を普及し、安全意識を向上させたいとの思いから始め、昨年で第七回を数えたとのこと。伐木技術の世界大会である『世界伐木チャンピオンシップ』の規定にない、安全のための防護服も完全着用です。昨年、主催者より声をかけていただき、大



レフェリーと選手

会に挑戦することになりました。用具等はお借りしての参加でしたが、目立てだけは自分で行いました。三〇ccのマシンを手に、三八センチのスギ丸太に挑んだ結果、タイム三三秒四七。同じ排気量のトップ選手に対し、倍近くの差をつけられたの最下位でした。意気消沈しながら目立てに仕直していると、周囲の選手から口々に指導が入ります。まさに大会を通じた技術交流。ちなみに最速の選手は、七〇ccのマシンを使い、三秒台で切断します。まるで豆腐を切るかのように！少しでも近づきたいものです。この他にも、町内の様々な取り組みに参加する機会をいただいています。貴重な経験を業務に生かすとともに、町作りのお手伝いにもなれば幸いです。